単元構想版「ICT を活用したまなび」授業実践

教科	国語	学年	5年
単元名	相手の意図に着目して感想を伝え合おう		
(教材名)	「日常を十七音で」(光村図書 国語五 銀河)		
	○語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う		
単元の	ことができる。 (知識及る	び技能(Ⅰ)言	言葉の特徴や使い方に関する事項 オ)
目 標	○作者の思いと選んだ言葉の関係や表現の工夫に着目してよさを伝え合い、自分の文章の		
	よいところを見付けることができる。	(思考)	カ、判断力、表現力等 B 書くこと カ)

時	学習活動	ICT 活用
1	○学習の見通しをもつ。・単元目標と学習活動を確認する。○俳句の題材を考える。・日常の風景の写真を数枚撮る。・その風景に対する気付きなどを、 短い文章にまとめる。	①【大型提示装置】 ・教科書の俳句と、教師の作成した俳句を確認する。 ・学習計画を確認する。 ①【学習者用端末】
2	○自分の思いを十七音で表す。 ・思いに沿うような季語を探す。 ・表現の仕方を工夫する。	・教室や校庭、家などで風景を撮影する。 ・写真撮影の際は注意事項を守る。 ②【学習者用端末】 ・季語を検索する。
3	○推敲する。・ほかに最適な表現がないか吟味する。・グループで交流して伝わるかどうか確認する。・俳句を完成させる。	③【学習者用端末】 ・写真を説明している文章をロイロノート の共有機能で確認しながら話し合う。 ④⑤【大型提示装置】
45	○共有する。・短い文章とともに俳句を発表し、よいところを 交流する。・クラスメイトからの感想をもとに、自分の俳句の よいところを理由とともにまとめる。	 ・写真と俳句を映しながら発表する。 ④⑤【学習者用端末】 ・写真、説明する文章、俳句をロイロノートの共有機能で確認しながら、クラスメイトが作った俳句のよさを見付ける。

備 考

- ○俳句を作成する過程をスモールステップで行い、ICT 機器を活用することで、児童は、風景と季語、 気持ちと季語を結びつけようと、意欲的に言葉を探すことができた。
- ○ロイロノートの共有機能を使うことで、クラスメイトの俳句のよいところをじっくりと考え、伝えることができた。その賞賛コメントのおかげで、自信をもって自分の俳句のよいところをまとめることができた。